

平成24年度事業評価報告書（施設名 県立甫喜ヶ峰森林公園）

項目	評価できる取り組み等	改善すべき課題
1 運営に関する評価	①ローテーション勤務により常に2人の勤務体制を確立している。また、イベント時等状況に合わせて勤務人数を増加したり、山林協会本部からの応援体制がとれている。 ②「甫喜ヶ峰森林公園安全マニュアル」により、施設内も適正に管理され、利用者の事故を未然に防ぐ安全確保ができています。 ③来園者への注意事項はトイレや掲示板に掲示して注意喚起を行っている。	①避難訓練については混乱を想定して行わなかったということだが、地震の時のことを考えると行うべきである。
2 事業実施に関する評価	①利用者のアンケート等で要望を把握して、利用者のニーズに合わせたプログラムを提供している。 ②インターネットや紙媒体（情報誌・チラシ）、マスコミ（新聞・テレビ・ラジオ等）を利用してより広く情報発信している。ホームページではイベント情報や甫喜の日記帳など更新をこころがけている。また、出前授業の際に宣伝する等地道な広報活動にも努めている。	
3 利用実績	①キャンプ場の利用者が3,433人（前年度3,536人）と微減したが、入館者数はほっきーの館とあわせると8,116人（前年度7,034人）と増加した。入園者数も51,089人（前年度50,328人）と増加した。	
4 収支の状況	①事業収入が少なく、多額の持ち出しを行っている ②経費削減のためにボランティアなどの協力で草刈り・清掃活動を行っている。	①キャンプ場利用料を徴収するなど収支の改善が図れる仕組みづくりが望まれる。
総合評価	B	①限られた管理費で、おおむね適正な管理が行われている。 ②事業収入が少なく、多額の持ち出しを行っているため、キャンプ場利用料を徴収するなど収支の改善が図れる仕組みづくりが望まれる。 ③子どもの環境・自然学習の場、自然を楽しむキャンプ、イベント等幅広く利用されているがリピーターを増やすための努力や県外などへの情報発信などが望まれる。

- 【評価の基準】 A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
 B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
 C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力及び改善が必要なもの
 D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの

業務の改善についての意見

改善を求める事項
①事業収入が少なく、多額の持ち出しを行っているため、キャンプ場利用料を徴収するなど収支の改善が図れる仕組みづくりが望まれる。 ②ボランティアの養成、地域貢献、自己実現へのサイクルを意識した組織運営が望まれる。 ③関係機関、団体との更なる連携を図ることが望まれる。
今後、充実させて取り組むべき事項
①利用している常連の人たちをもう少し上手く取り込む工夫が必要である。